Overview

Our History

医療分野の進化の歴史

世界初の実用的な胃カメラを開発

東大第一内科の医師と当社技術開発陣との
共同開発で胃カメラ実用化に成功。
ファイバースコープの登場で胃の中を
直接リアルタイムで見ることが可能に。

外科事業への参入

内視鏡が外科治療にも使われることを想定し、
1979年にドイツの硬性鏡メーカーを買収、
外科内視鏡分野に本格的に進出。

FY2005

医療分野
28%

ビデオスコープで新時代へ

先端部にCCDを組み込んだビデオスコープにより、
画像をテレビモニターに表示し、
複数の医療従事者が観察状況を共有可能に。

FY2010

医療分野
40%

「内視鏡外科手術」の発展

HD画像の外科内視鏡や、高周波と超音波を
同時出力する世界初の外科手術用エネルギー
デバイス、3Dや4Kの外科内視鏡等、
革新的な製品を順次投入。

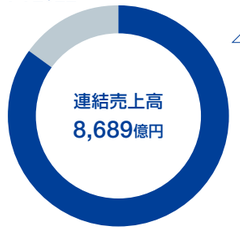
FY2015

医療分野
73%

特殊光観察で「光を診る」時代へ

「NBI(狭帯域光観察)」の開発等、技術的な
進展が加速。内視鏡は観察だけではなく、
治療や処置の役割も果たす医療機器として進化。

FY2022



医療分野
85%

(注)
2015年3月期まで日本基準
2022年3月期はIFRS基準

■ 医療分野
■ その他

内視鏡事業

1950 消化器内視鏡
世界で初めて実用的な
胃カメラを開発

1975 外科内視鏡
医療用硬性内視鏡
分野に参入

1985 消化器内視鏡
ビデオ内視鏡システム
「EVIS 1」発売

2006 消化器内視鏡
NBI搭載のビデオ
スコープシステム
「EVIS EXERA II」発売

2012 消化器内視鏡
消化器内視鏡ビデオスコープ
システム「EVIS EXERA III」
「EVIS LUCERA ELITE」発売

2015 外科内視鏡
4K技術搭載の
外科手術用内視鏡
システムを発売

2017 外科内視鏡
3DおよびIR(赤外光)
観察に対応した
外科手術用内視鏡システム
「VISERA ELITE II」発売

2020 消化器内視鏡
消化器内視鏡システム
「EVIS X1」発売

2021 外科内視鏡
蛍光ガイド手術用
イメージングシステム
「Spectrum®*」の獲得

治療機器事業

医療事業の歴史は
こちらをご覧ください。
https://www.olympus.co.jp/ir/data/medical.html

*2022年9月末時点で医薬品医療機器等法未承認品です

1966 消化器科(処置具)
当社初の「生検用スコープ」
および「処置具(生検鉗子・
細胞診ブラシ)」発売

2002 消化器科(処置具)
広範囲の粘膜切除を
可能にする
高周波ナイフの発売

2004 呼吸器科
超音波気管支鏡ガイド
下針生検を実施する
ための内視鏡と専用の
穿刺針を開発・発売

2005 泌尿器科
世界初の生理食塩水下
前立腺切除術の実用化

2010 呼吸器科
肺気腫・気胸治療デバイス
(バルブ*)の獲得

2013 その他の治療領域
世界初のバイポーラ高周波と
超音波の統合エネルギーデバイス
「THUNDERBEAT」発売

2020 消化器科(処置具)
大腸内視鏡検査等における
視認性の維持に貢献する
「ENDOCUFF VISION™*」の獲得

2020 呼吸器科
肺がんの早期診断・治療に
貢献する電磁ナビゲーション
システム*の獲得

2021 泌尿器科
前立腺肥大症に対する
低侵襲治療デバイス
「iTind*」の獲得

科学事業

1920 ライフサイエンス
当社初の顕微鏡
「旭号」発売

1968 産業
当社初の工業用
ファイバースコープを発売

1983 ライフサイエンス
世界初のAF機能搭載
万能顕微鏡「AH2」発売

2006 産業
非破壊検査機器
「OmniScan iX」発売

2016 産業
工業用内視鏡
「IPLEX NX」発売

2016 ライフサイエンス
共焦点レーザー走査型
顕微鏡「FV3000」発売

2016 産業
ハンドヘルド蛍光X線
分析計「VANTA」発売

(注)
当社は、Bain Capital Private Equity, LPが投資助言を行う投資ファンドが間接的に株式を保有する特別目的会社に対して、2023年1月に株式会社エビデントの全株式を譲渡する予定です

1919年～1950年代
創業と経営近代化への道

1919 「株式会社高千穂製作所」として
創立(顕微鏡の国産化を目的)
1921 商標を「オリンパス」として登録
1936 当社初のカメラ「セミオリンパスI」発売
(カメラ事業に参入)
1949 社名を「オリンパス光学工業」と改称
東京証券取引所に株式上場

1960年～1980年代
光学総合メーカーへの発展、海外販売拠点の拡充

1964 欧州現地法人設立
1968 米国現地法人設立
1979 カリフォルニア州に米国拠点設立
(現 北米最大の医療修理サービス拠点)
1989 中国北京市に駐在事務所、
シンガポールに現地法人設立

1990年～2010年
医療分野の多角化

2001 テルモ(株)と提携
2008 中国(上海)に初の
トレーニングセンター設立
英国Gyrus Group PLC社を買収
(医療分野における外科領域を強化)

2011年～2015年
原点回帰と医療分野への リソースシフト

2011 過去の損失計上の先送り発覚
2012 新経営体制が発足
ソニー(株)との業務・資本提携
情報通信事業を譲渡
2013 東京証券取引所による当社株式の
「特設注意市場銘柄」の指定解除
海外市場での資金調達(約1,100億円)

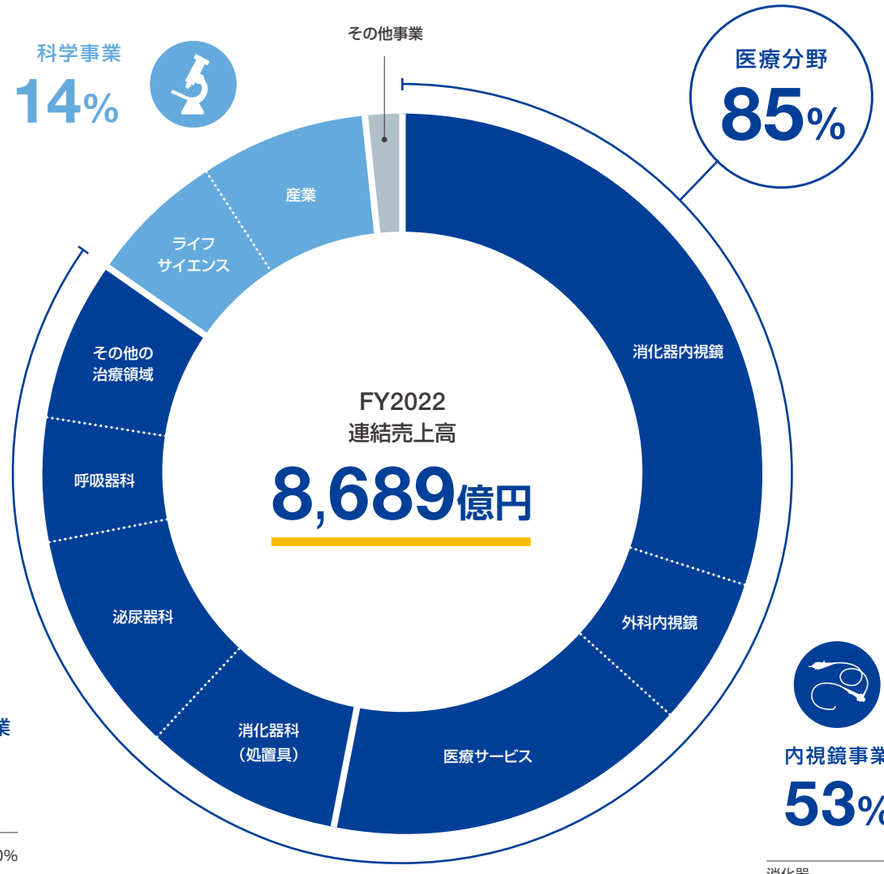
2016年～2018年
経営再建ステージから 持続的発展ステージへ

2016 医療用内視鏡関連の開発・製造拠点
(会津・白河・青森)を増強(新棟竣工)
2018 経営理念を改定

2019年～
真のグローバル・ メドテックカンパニーへ

2019 企業変革プラン
「Transform Olympus」／経営戦略発表
2020 米国Veran Medical Technologies社を買収
2021 映像事業を譲渡
オランダQuest Photonic Devices社、
イスラエルMedi-Tate社を買収
医療分野における戦略的な方針を発表
2022 科学事業を分社化

At a Glance



治療機器事業
32%

消化器科（処置具）	約30%
泌尿器科	約30%
呼吸器科	約15%
その他の治療領域	約25%

内視鏡事業
53%

消化器内視鏡	約55%
外科内視鏡	約15%
医療サービス	約30%

海外売上 80%超

日本	北米	欧州	中国	アジア・オセアニア	その他
1,352億円（15.6%）	2,934億円（33.8%）	2,179億円（25.1%）	1,254億円（14.4%）	775億円（8.9%）	195億円（2.2%）

医療分野

内視鏡事業

売上高	営業利益	営業利益率
4,615億円	1,332億円	28.9%

内視鏡事業は、医療分野における革新的な技術と製造技術で医療従事者の皆さまと共に歩んでまいりました。診断そして低侵襲治療において、より良い臨床結果を生み、医療経済にベネフィットをもたらし、世界の人々の健康やQOL向上に貢献してまいります。1950年に世界で初めてガストロカメラを実用化して以来、オリンパスの内視鏡事業は成長を続けており、現在では、軟性内視鏡、硬性鏡、ビデオイメージングシステム、デジタル・カスタマーソリューションから、感染対策、修理サービスに至るまで、さまざまな製品・サービスで医療に貢献しています。

主な製品

- 消化器内視鏡ビデオスコープシステム
- 外科手術用内視鏡システム
- 手術用顕微鏡システム
- リプロセス
- 修理サービス
- カスタマーソリューション（医療デジタルソリューション等）

治療機器事業

売上高	営業利益	営業利益率
2,756億円	608億円	22.1%

治療機器事業は、医療分野における革新的な技術と製造技術で医療従事者の皆さまと共に歩んでまいりました。診断そして低侵襲治療において、より良い臨床結果を生み、医療経済にベネフィットをもたらし、世界の人々の健康やQOL向上に貢献してまいります。ポリープ切除用のスネア開発に始まり、さまざまな製品が疾患の予防、診断、治療に役立っています。

主な製品

- 消化器科関連処置具
- 泌尿器科婦人科製品
- 呼吸器科製品
- エネルギーデバイス
- 耳鼻咽喉科製品
- その他外科用シングルユース製品

科学事業

売上高	営業利益	営業利益率
1,191億円	175億円	14.7%

科学事業は、科学的な視点で物事を見る姿勢を事業の根幹とし、イノベーションと探求の精神が私たちの行動の原点となっています。世界の人々の健康と安心、心の豊かさを実現するため、医学的研究分野、インフラ設備の点検、製造現場における品質管理、消費材に潜んだ有害物質の検出など、さまざまな現場におけるお客様の課題解決や成果の向上に貢献します。

主な製品

- 生物顕微鏡
- 工業用顕微鏡
- 工業用内視鏡
- 非破壊検査機器
- 蛍光X線分析計

（注）当社は、Bain Capital Private Equity, LPが投資助言を行う投資ファンドが間接的に株式を保有する特別目的会社に対して、2023年1月に株式会社エビデントの全株式を譲渡する予定です

その他事業

売上高
126億円

その他事業は、人工骨補填材等の生体材料、整形外科用器具などの開発・製造・販売等を行っているほか、新規事業に関する研究開発や探索活動に取り組んでいます。

Overview

Our Products

オリンパスは、消化器内視鏡を核とした「早期診断」、内視鏡処置具や外科製品を中心とした「低侵襲治療」という2つの価値を提供し、患者さんのQOL（Quality of Life：生活の質）向上と世界的に増加傾向にある医療コストの抑制に貢献していきます。

早期診断

- 当社の主力製品である消化器内視鏡は、病変の発見・診断・治療の質や検査効率の向上を目指した技術を搭載することで、がんなどの消化器疾患の病変を初期の段階で発見することに貢献しています。
- また、観察中に疑わしい病変が見つかった場合には、その部位を採取して病理検査を行うことが可能です。
- 最近では、内視鏡の拡大機能により、組織を傷つけることなく、その場で拡大画像から確定診断を行える可能性も期待されています。

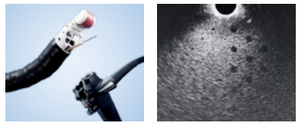
低侵襲治療

- 消化器内視鏡は治療用の処置具とともに使用することで、早期がんの治療をはじめとして、ポリープ切除、誤飲した異物の摘出など、さまざまな治療を行うこともできます。
- 泌尿器分野では、高齢化の進展に伴い増加が予想されている前立腺肥大症の治療機器として、切除手術なしでクリニックでも治療ができる機器を展開しています。患者さんの体内に異物が残存しない低侵襲な治療方法です。
- また、内視鏡を用いた外科手術（腹腔鏡手術）では、従来の開腹手術のようにおなかを大きく切る必要がなく、患者さんの感じる術後の痛みが少なくて済むといわれており、入院期間の短縮や早期の社会復帰に貢献するなど、さまざまなメリットがあります。

拾い上げ → **診断** → **生検・採取** → **内視鏡治療** → **内視鏡外科手術**

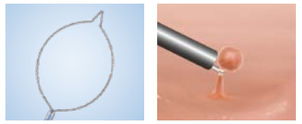
消化器内視鏡システム

拡大内視鏡


超音波内視鏡

生検鉗子

細胞診ブラシ


スネア

高周波ナイフ

外科内視鏡システム

外科手術用
エネルギーデバイス

その他の低侵襲治療

前立腺肥大症
低侵襲治療デバイス

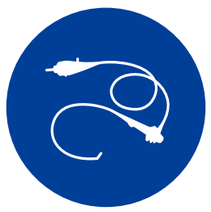
ツリウムファイバー
レーザー装置

オリンパスが解決する社会課題

190万人

大腸がんの罹患者数／年*1

*1 年間罹患者数・グローバル
出典：GLOBOCAN 2020



5,000万件

大腸内視鏡件数／年*2

*2 自社調べ。グローバル：米国、カナダ、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、英国、ポーランド、日本、中国、韓国、オーストラリア、インド、ロシア／2019年時点

内視鏡は、がんを発見し、治療する上で重要な役割を果たしています。例えば、大腸がんは、2020年のデータでは年間約190万人の方が新たに罹患しており、今後もこの数は増加が見込まれます。この大腸がんの診断・治療等のために大腸内視鏡検査は年間で約5,000万件実施されており、そのうち多くで当社の製品が使われています。

100

適応可能な疾患数*3

*3 2022年3月現在

罹患数の多いがんに

治療機器を提供*4

内視鏡は、病変の発見や診断だけでなく、処置、治療にも活用されます。消化器内視鏡の処置具以外にも、さまざまな診療科に向けた多種多様な治療機器を提供しており、当社の製品で約100の疾患に適応させることができます。罹患者数の多い上位5つのがんのうち、4つのがん（肺がん、胃がん、大腸がん、前立腺がん）*4への治療方法を提供するとともに、その他のがんの治療機器の開発も行い、世界の人々の健康のために貢献しています。

*4 2022年3月現在
出典：GLOBOCAN 2020 罹患者数1位の乳がんを除く